

## 「群馬県森林・林業基本計画2021-2030」の発行にあたって

近年、気候変動の影響等により災害が激甚化・頻発化し、令和元年東日本台風（台風第19号）や令和2年7月豪雨など、毎年のように多くの犠牲者や被害が発生しています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界全体が大混乱に陥り、社会的にも経済的にも大きな打撃を受けています。

このような状況の中、昨年12月、20年後の本県が目指す姿を描く「新・群馬県総合計画（ビジョン）」を策定し、「誰一人取り残さない自立分散型の社会」の実現を目指すこととしました。

本県は、木材の大消費地である東京圏に近く、県土の3分の2を森林が占める関東一の森林県で、森林資源が充実しているなどポテンシャルは高く、本県の林業・木材産業は大きく飛躍するチャンスがあります。

今回策定した「群馬県森林・林業基本計画2021-2030」では、このポテンシャルを120%発揮させ、飛躍に向けた推進力を確かなものにするため、大胆な構造改革と産業基盤の強化によりコストの縮減と収益性の向上を図り、「自立した林業・木材産業」の実現を目指します。

また、「自然災害による死者ゼロ」や「温室効果ガス排出量ゼロ」など、全国に先駆けて行った、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」を実現するため、林業経営を通じた森林整備により、水源かん養や土砂流出防止、二酸化炭素吸収など森林の持つ公益的機能の維持・増進を図り、災害に強く、持続可能な社会を構築します。

これらの取組を強力に推進することにより、2040年のビジョンとして示した森林資源と資金が林業・木材産業で循環する、「県産木材による自立分散型社会」を実現し、県内に新たな富を生み出していきます。

県では、森林・林業関係者と連携して本計画の推進に全力で取り組んで参りますので、引き続き県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

令和3年3月



群馬県知事 山本 一太